

1 テーマ 良いところさがし【リソースとは？】

2 本時のねらい

人の問題点に目をつけるのとその人が今持っている力に目をつけるのとではどのように感じ方が違うかを実感し、リソースの概念を知ってもらう。そして、それを友達の見方として自分に引き寄せて考えられるようになる。

3 展開の構想

新聞記事を読み、そこに登場する男の子の特徴を挙げてもらう。特徴の中でもその男の子の良いところに着目した発言を取り上げ、リソースの概念を説明する。続いて、母と子の会話の書かれた二種類のプリントを配り、その中の子どもになった気持ちでプリントを読み、感じ方の違いを発表してもらう。

4 本時の展開

2006年2月6日(月)

授業者:石平・中村・平山・山本

時間	学習活動	教師の支援	評価の視点と方法
5	新聞記事「ゲームだけは譲れない」(資料1参照)を読み、そこに登場する男の子、タクロウくんの特徴を考えて書く。	机間支援をして、特徴が書けない生徒へ声がけや、生徒が考えたタクロウくんの特徴を見て把握しておく。	新聞記事を読み、タクロウくんの特徴を考えようとする。
3	自分が感じたタクロウくんの特徴を発表する。	生徒からの意見を板書していく。発表者がいなかった場合には、机間支援の際に見ておいた、タクロウくんの特徴について、良いところと悪いところそれぞれを書いていた生徒をあてる。	自分の考えを発表しようとする。
3	「リソース」の概念についての説明を聞く。	生徒が挙げたタクロウくんの特徴を例に、リソースの説明を行う。	
3	ある日常生活の母親と子の会話が書かれたプリント(資料2参照)を読み、子どもになったつもりで感じたことを書く。	机間支援をして、特徴が書けない生徒への声がけ、生徒の書いた意見の把握をしておく。	子どものA場面、B場面それぞれの気持ちを考えようとする。
3	自分が感じたことを発表する。	生徒が挙げた意見を板書する。そしてプリントAとBでは同じ場面であっても母	自分の感じたことを発表しようとする。

		親の対応の違いによって子どもの感じ方が変わってくることを生徒の意見を例にして説明する。	
3	本時のまとめをする。	今回の授業で扱ったリソースの例を普段の生活に還元して普段自分たちが友達のこういった面を見ているか問いかけ、これからの生活の中でリソースの概念を生かせるように話し、本時のまとめをする。	リソースの概念を自分の生活場面に引き寄せて考えようとする。

資料 1

ゲームだけは譲れない

出典 2006 年 1 月 11 日（水）朝日新聞

昨年 11 月の木曜日、居間には電子音が響いていた。中学 1 年生の星野拓朗君(12)が、175 センチの長身を折り曲げ、テレビの前に寝そべっている。手にはゲームのコントローラー。外で冬支度をしていた父信之さん(47)が入ってきた。

「何で拓朗がいるんだよ」

「お母さんが寝坊したから学校行けなかった。さっきまで勉強してたんだけど」

「朝は自分で起きろ。遅刻してでも登校しろよ」

これまで散々、ゲームのやりすぎを注意されてきたが、絶対に謝らなかった。学校や手伝いをサボった非は認めても、ゲームだけは半泣きになっても死守してきた。

拓朗君は「他の遊びはしない。僕だけでなく、みんなゲームが好き。ゲームがなくなれば、友達もいなくなる」。

拓朗くんは 5 歳からゲームに親しみ、ろくに字も読めないことから、攻略本に見入ってきた。今、付き 2 0 0 0 円の小遣いはゲームソフトやゲーム雑誌に注ぎ、中古ソフトの売買も覚えた。「学習机も売ろうかな」と真顔で話す。

期末テストが迫った夕刻、信子さんが声をあららげた。

<勉強しなさい。高校にいけなくなるよ>

拓朗君はしぶしぶ数学の問題集を開き、「いいよ、行かなくても」と答えた。

<進学しないなら働いて。働かない大人が増えているのよ>「。」

<職人さんになったら？家具作るとか、大工さんとか>「無理、できっこない」。

<コックさんは？>「無理でしょう」

信之さんは、息子の意欲がゲームにしか向かないことに首をひねる。

拓朗君は、母が寝込めばおかゆを作り、父に呼ばれれば手伝いに走る。が、早く大人になりたいとも思わず、都会への憧れもないという。「ゲームソフトはどこで買っても同じだし」

ある晩、家族がそろった居間で、拓朗君が「ウォー」と大きな声をあげた。「これだよ、これ！」と、テレビの前で小躍りする。新作ソフト発売の CM が流れていた。

資料2 最後の四角に入る子どもの気持ちを考えてみましょう。

A

子：ただいま。

母：お帰り。

子：今日ねー、数学のテスト返ってきたんだよ。

母：そう。どうだったの？

子：75点だったんだよー。

母：75点かー。テストやってみてどうだったの？

子：んー、いつもよりすごい難しかったんだよ。

母：そうだったのね。それで75点だったらすごいじゃない。

子：でも○○ちゃん90点だったしー・・・

母：自分では精一杯やれた？

子：うん。やれたよ。

母：それじゃあ○○ちゃんと比べることないわよー。

よくがんばったね。

子：

B

子：ただいま。

母：お帰り。

子：今日ねー、数学のテスト帰ってきたんだよ。

母：そう、どうだったの？

子：75 点だったんだよー。

母：75 点！？○○ちゃんはどうだったの？

子：○○ちゃんは・・・90 点だったけど・・・でも難しかったから、

75 点しか取れなかったんだよ・・・

母：また遊んでたんじゃないの？ちゃんと勉強してたら○○ちゃん

くらいできたんじゃないの？

子：でも、すごい難しいところだったんだよー。

母：じゃあ、もっと勉強しなきゃだめだったんだね。

子：・・・・・・・・。

母：今度はもっと勉強しなさいよ。

子：